

福王子神社秋季大祭

仁和寺のすぐ西にある福王子神社は、仁和寺の開祖、宇多天皇（867～931）の母、班子皇太后（833～900）を祀った神社です。毎年 10 月の第 3 日曜日に開催される福王寺神社秋季例大祭では、この母子の絆が祝われます。班子の霊が宿っているとされる精巧な造りの神輿が、神社から周辺地域を歩いて仁和寺へと運ばれてきます。行列は、二王門を歩いて境内に入り、通常は天皇の従者や使者だけに開かれている勅使門をくぐり、宸殿の前で止まります。宸殿の最も奥にある部屋に祀られている宇多天皇の肖像画の前には、班子の霊が宿っているとされる神聖な木の枝（玉串）が供えられます。この瞬間は、母と息子の再会を象徴するものだと考えられています。そして、神輿は担がれ、福王寺神社へと戻っていきます。この秋季大祭の儀式は、日本の歴史の中で神道と仏教の信仰としきたりがいかに密接に絡み合っていたかを思い起こさせます。